

2023年度 第2回 現代文化人類学会（旧早稲田文化人類学会）定例研究会
「ウクライナ侵攻問題と人類学・民族学から／への問い」

●日時：6月12日（月）17時15分～（17時05分開場予定）

*通常の日時とは異なりますので、ご注意ください。

●場所：初のハイフレックス方式での開催となります。

*【対面参加を希望される方へ】

特に事前申込の必要はありません。直接会場にお越しください。

会場：早稲田大学戸山キャンパス 36号館 682教室

→交通アクセス：<https://www.waseda.jp/top/access/toyama-campus>

*【オンライン参加を希望される方へ】

事前申込が必要です。6月9日（金）までに下記のGoogleフォームを通じてお申し込みください。6月10日（土）以降、参加申込をされた方のみ、ZoomのURLをお送りします。

→Googleフォーム：<https://forms.gle/nURvHZVJdcnz159j9>

*どなたでもご参加いただけます。

●企画趣旨：

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、この地域を研究対象に含む研究者たちにも大きな衝撃を与え、それぞれの立場から発信が試みられてきました。2023年度第2回の定例研究会では、長年同地域をフィールドとして研究を続けてこられたお二方から問題提起をいただき、人類学・民族学からいかなる問いかけが可能なのか、また、ウクライナ侵攻問題が人類学・民族学に問いかけるものは何か、考えてみたいと思います。

●プログラム：

17時15分～17時20分 趣旨説明

17時20分～18時00分

渡邊日日（東京大学大学院総合文化研究科教授）

「反人間主義のリアリズム：ウクライナ戦争と人類学的言説をめぐる若干の省察」

18時00分～18時40分

伊東一郎（早稲田大学名誉教授）

「ロシア・ソビエト民族学におけるウクライナとスラヴ民族学におけるウクライナ」

18時45分～19時15分 ディスカッション

●お問い合わせ：

現代文化人類学会定例研究会ワーキンググループ

松前もゆる

moyuru_m [a] waseda.jp

*[a]を@に変えて送信してください。